RECRUITMENT

本プログラムの履修者は、大学院自然科学研究科、大学院医薬 保健学総合研究科、大学院先進予防医学研究科、大学院新 学術創成研究科の4研究科の入学者の中から広く募集します。

選抜方法の詳細はプログラムWebサイトを参照してください。







SUPPORT

① 入学料及び授業料の全額免除 本プログラム履修者全員の入学料及 本プログラム履修者で成績優秀な学生 び授業料の全額を免除します。

リサーチアシスタント ③ RA給与の支給

の研究補助者として雇用するものに、 RA給与を支給します。

② 給付型奨励金の支給

に対し、教育研究支援奨励金を給付します。 (上限150,000円/月)

④ 研究旅費等の支援

プログラム担当者の研究プロジェクト等 研究インターンシップや海外研究留学 の旅費について、一定の範囲内で補助 します。

実施体制:連携機関

金沢大学

大学院自然科学研究科 大学院医薬保健学総合研究科 大学院先進予防医学研究科 大学院新学術創成研究科







University of British Columbia





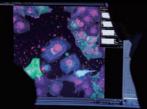
Pfize



DAICEL Shihugu

人材育成・交流や新たな共同研究創出の持続的な展開に向け、大学、研究機関や民間企業等からのご参画をお待ちしております。







金沢大学 卓越大学院プログラム

お問い合わせ先

〒920-1192 石川県金沢市角間町

金沢大学 卓越大学院プログラム推進室 mail: wise-ku@adm.kanazawa-u.ac.jp





ANAZAWA UNIVERSITY

類が待っている。



金沢大学 卓越大学院プログラム ナノ精密医学/理工学

変化に応じる人になるか。or変化を起こす人になるか。

変化に対応する、といえば聞こえはいい。でも、変化を起動する、という選択肢もあります。いま、世界が求めているのは、"変化を起こす側に立つあなた"かもしれません。世界が…人類…が、という表現は大げさに感じるでしょうか?そんなことはないです。あなたは、さまざまな社会課題に直面する人々を救うかもしれない。世界最高水準の教育・研究力を結集した環境で得た知見を抱えて、人類の健康基盤構築のためのイノベーションを起こす人になるかもしれない。金沢大学はそう予感しています。ここから巣立つ人材が、人類待望の"変化"を起こすと信じています。

卓越大学院プログラムとは

「卓越大学院プログラム」は、国内外の大学、研究機関や民間企業等の外部機関と組織的な連携を図り、世界最高水準の教育・研究力を結集して、社会にイノベーションをもたらす博士人材(高度な「知のプロフェッショナル」)を育成する、5年一貫型の博士前期・後期課程(4年制博士課程を含む)学位プログラムです。





PROGRAM

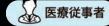


图 医派化学日







革新的予防・診断・治療法の創出

技術に強いナノ精密医学・ 医学に強いナノ精密理工学 プロフェッショナル

- (1) 医学と理工学のマルチディシプリン(2) 研究開発現場を熟知
- (3) 多様な人材の中心でHub的役割

世界一線級の研究者が集う、金沢大学が誇る世界トップレベル研究拠点(WPI)ナノ生命科学研究所の研究環境・実績を最大限に活用し、最先端のナノ解析技術を、医学・理工学へと応用する術を修得することで、ナノレベルでの理解・制御による革新的予防・診断・治療法の創出を担う「技術に強いナノ精密医学プロフェッショナル・医学に強いナノ精密理工学プロフェッショナル」を育成します。



CURRICULUM

カリキュラム

本プログラムのカリキュラムは、ナノ科学における俯瞰力と独創力を養う「プログラム基盤課程」と 国際的視野と高度な専門性を養う「専門コース課程」から構成します。プログラム履修者は、

「プログラム基盤課程」と「専門コース課程」の必修科目の単位を修得し、 所属研究科所定の単位を修得、博士論文の審査及び

最終試験の合格が必要です。



プログラム基盤課程

入学後は、特定の専門コースに所属せず、まず「プログラム基盤課程」において、「ナノ科学概論」を始めとするプログラムの基盤となる基礎科目を履修します。その後、Nano-Qualifying Examinationの筆記・口頭試問を実施し、ナノ医学・ナノ理工学における基礎的知識を修得しているかを評価し、合格者のみ専門コース課程へ進みます。

専門コース課程

「ナノ先制医学コース」、「ナノ脳神経学コース」、「ナノ環境科学コース」、「ナノ診断開発コース」の4コースの中から一つ選択・履修します。いずれのコースも、運営担当する研究科に所属するプログラム担当者だけではなく、それ以外の研究科や他大学・企業からの担当者が参加し、多様な教育を展開します。所属研究科の第1メンターと所属専門コースの第2メンターからの指導を受けながら、知のプロフェッショナルとして成長する期間と位置づけています。

